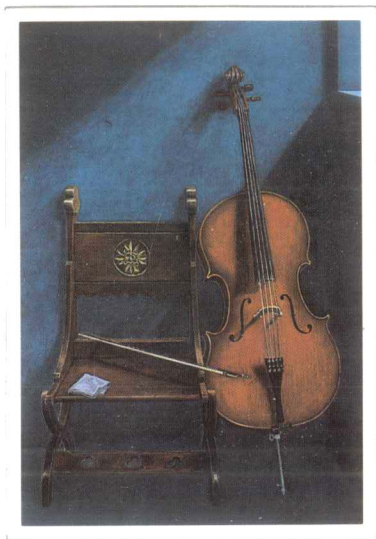


茨木のり子
寄りかからず



倚り
か
か
ら
ず

江苏工业学院图书馆
藏书章

苏
木
の
り
子

筑
摩
書
房

茨木のり子（いはらぎ・のりこ）
 一九二六年大阪に生まれる。
 詩人。一九五三年、川崎洋氏
 と詩誌「權」を創刊、一九九
 九年現在、三十三号を数える。

寄りかからず

一九九九年十月七日 第一刷発行
 一九九九年十二月五日 第五刷発行

著 者 茨木のり子

発行者 菊池 明郎

印刷 明和印刷
 製本 矢嶋製本

発行所 筑摩書房

東京都台東区蔵前二一五―三
 振替〇〇一六〇―八四一―二三

ご注文・お問い合わせ、乱丁・落丁本の交換は左記宛へ。
 〒三三八〇七 大宮市柳引町一六四 筑摩書房サービスセンター
 TEL 〇四六六五―一〇五五

寄りかからず・目次

木は旅が好き	8
鶴	12
あのひとの棲む国	16
鄙 ^{ひな} ぶりの唄	22
疎開児童も	26
お休みどころ	30
店の名	38
時代おくれ	42

寄りかからず 48

笑う能力 52

ヒカソのぎよろ目 58

苦しみの日々 哀しみの日々 64

マザー・テレサの瞳^{ひとみ} 68

水の星 74

ある一行 78

あとがき 82

寄りかからず

装画・高瀬省三

木は旅が好き

木は

いつも

憶っている

旅立つ日のことを

ひとつところに根をおろし

身動きならず立ちながら

花をひらかせ 虫を誘い 風を誘い

結実を急ぎながら

そよいでいる

どこか遠くへ

どこか遠くへ

ようやく鳥が実を啄むついば

野の獣が実を嚙^{かじ}る

リュックも旅行鞆もパスポートも要らないのだ

小鳥のお腹なんか借りて

木はある日　ふいに旅立つ――空へ

ちやっかり船に乗ったのもいる

ポトンと落ちた種子が

へいいところだな　湖がみえる

しばらくここに滞在しよう

小さな苗木となって根をおろす

元の木がそうであつたように
分身の木もまた夢みはじめ
旅立つ日のことを

幹に手をあてれば
痛いほどにわかる

木がいかに旅好きか

放浪へのあこがれ

漂泊へのおもいに

いかに身を振よっているのか

鶴

鶴が

ヒマラヤを越える

たった数日間だけの上昇気流を捉え

巻きあがり巻きあがりして

九千メートルに近い峨峨^{がが}たるヒマラヤ山系を

越える

カウカウと鳴きかわしながら

どうやってリーダーを決めるのだろう

どうやって見事な隊列を組むのだろう

涼しい北で夏の繁殖を終え

育った雛もろとも

越冬地のインドへ命がけの旅

映像が捉えるまで

誰にも信じることができなかった

白皚皚はくがいがいのヒマラヤ山系

突き抜けるような蒼い空

遠目にもけんめいな羽ばたきが見える

なにかへの合図でもあるような

純白のハンカチ打ち振るような

清冽な羽ばたき

羽ばたいて

羽ばたいて